

雪で飛行機が欠航しました

澤 功（澤の屋旅館主人） ※この記事は日観連機関誌の2008年4・5月号に掲載されました。

北海道では7月の洞爺湖サミットを契機として、外国人客を呼び込むために、いろいろなフォーラムを開催しています。

その中の一つで、札幌での「国際観光コンベンションフォーラム2008」にゲストスピーカーとして呼ばれました。

私は、「インバウンドの現場」がテーマの分科会に参加し札幌のFIT推進協議会の方と稚内地域再生マネージャー、それに会場の参加の人たちも一緒になって北海道にどうやって外国人客を増加できるかの活発な議論に加わってきました。私は持論である国際会議の誘致とツアー客の増大とともに個人観光客の増加をはかることが、いかに大切であるかを一生懸命主張してきました。

翌日、洞爺湖の町長さんも参加した「観光コンベンションのための都市マーケティング」の検討を正午まで聞きました。

それから午後7時の飛行機に乗るまで、いつものように町歩きをしようと思いました。

札幌市内は雪が積もって歩けないので「大通り」から「すすきの」まで、約1時間かけて料金170円の市電に乗りました。乗り降りする地元の人たちの会話や、外の雪景色を見ながら冬の札幌の町に少し触れたような気がしました。

それから札幌駅のデパ地下で、家族への土産を買って千歳空港に向かいました。

空港では、ジンギスカン料理を食べて、ビールを飲んであとは飛行機に乗り込むだけです。

出発ロビーで待っていると、降りはじめた雪の影響で出発が大幅に遅れる予定ですという放送が流れました。

ところで、私は自分を「晴れ男」と信じています。青森に講演に行った時も「澤さん、この雪では、飛行機は欠航になりますよ」と言われましたが大丈夫でした。富山でも飛行機に乗り込み「雪の晴れ間を見て飛びます」という機長のアナウンス通り飛んで帰ることができました。だから今回もなんの心配もありませんでした。飛行機にチェックインできたのが午後九時頃、それから何回も滑走路に向かおうとしますができません。午後11時になって「滑走路の雪かきを何度も試みましたが、雪が降りやまず、やむなく欠航します」と機長のアナウンスです。

私は次の日、都立駒込病院にMRIの予約をとってありこれは困ったと思いました。さっそく携帯電話で家に欠航で帰れなくなったことと、翌日のMRIの予約の取り消しを頼みました。機外に出て、次は翌日の飛行機への振替の手続きです。こういうことで窓口に並ぶときはどういうわけか、いつも私は

一番、最後になってしまいます。なんとか順番が来て翌日午前11時半の航空券と3500円を渡されました。このお金が、宿泊料金なのかどうか聞けばよかったと後で思いました。

時間は12時を過ぎ、札幌に行くJRの最終便は出でしまい、バスは雪のため3時間はかかると言います。その上、千歳周辺のホテルは全部満員だそうです。

うろうろしていると「会議室を開放しました」というのでそちらに向かうと「満員になりましたので出発ロビーを開放することになりました」と言われて、ロビーに戻ると毛布が一枚支給されました。あちこちの椅子のまわりで集まって寝る支度をしています。

男の人たちのグループを探して、その隅の方に陣取って床の上に寝ました。

翌朝早くから起きて、空席待ちをして、それでも午前9時30分発で羽田に着くと東京は青空でした。

ところで私どもの外国のお客さまから「飛行機が飛ばないので一日遅くなる」という連絡が入ることがあります。こういう時はキャンセル料はいただいていませんが、今回の私のように大変な目にあっていることを実感しました。

今回の体験で、私は自分が「晴れ男」だという自信が少しゆるぎました。

しかし、家内との海外旅行で、こんな場面に遭遇した時のためには、いい体験をしたのだと、自分に言い聞かせています。